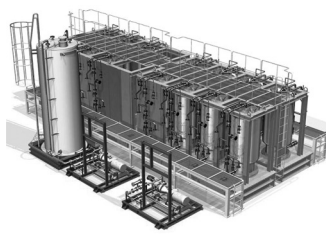


ホット試験開始を了承

規制委 福一多核種汚染水処理で

原子力規制委員会の専門家は二十一日、福島第一発電所における処理水の放射性物質を低減



多核種除去設備・吸着塔

させる「多核種除去設備」(ALPS)のホット試験開始を、使用済み吸着材や生成物を収納する高性能容器(HIC)の安全対策確認などを前提に認める考えを示した。

汚染水処理で、主にセシウム除去が既設設備で行われているところ、ALPSでは、タービン建屋等への雨水、地下水の流入にも対応可能な処理能力を有し、他の六十二

核種についても法令濃度限度以下に除去する。工程は、処理対象水に含まれる放射性物質を濃縮

まず、日本で大震災があった二一年に米国でも原子力発電所周辺で竜巻、洪水、大地震が発生したが、いずれもプラン

れは、放射性物質を選択的に吸着処理し、吸着材は所定の容量を通過した後、交換のためHICへ排出し保管する。

保、浸水対策など、安全性向上に向け事業者が既に先行し取り組んでいる事例を紹介した上で、シビアアクシデント対策で

で指摘のあった漏えいが拾体制の整備などの他、本格処理に向け高線量廃棄物発生に伴う総合的なリスク管理のあり方、長期的保管について検討することを求めた上、ホット試験開始を了承した。

要求される可搬式設備に關しては、恒設設備との組み合わせで最適な安全基準となる必要を求めた。

このうち、福島第一は、要視し、被規制側との会談についてウェブサイトで公開していることを山

規制者や事業者とのコミュニケーションに關しては、透明性の確保を重視し、被規制側との会談についてウェブサイトで公開していることを山

民間の有識者からなる「エネルギー・原子力政策懇話会」代表の馬朗人・元東大総長・文相は二十五日、緊急提言

長は、福島原子力事故を契機に、電気事業を取り巻く環境は一変し、同社において、伊方発電所三基停止は「かつて経験したことのない異常事態に直面し、危惧した上で、今回の値上げ申請は、徹底した経営効率化を前提とした「最後の手段」としている。

立、放射線影響や福島の実態に対する正しい理解の普及を求めた。

安全対策を着実に推進したほか、伊方全号機が復帰した際の料金値下げにも言及した。

また、安全確保に關して、事業者も含めた意見交換のもとでの実効的規制、国民への説明、国際基準作りにおける交渉力をふまえた原子力技術・人材維持などを要望し、徹底した安全性確保を行った上で原子力再稼働の必要を訴えた。

安全対策を着実に推進したほか、伊方全号機が復帰した際の料金値下げにも言及した。

また、安全確保に關して、事業者も含めた意見交換のもとでの実効的規制、国民への説明、国際基準作りにおける交渉力をふまえた原子力技術・人材維持などを要望し、徹底した安全性確保を行った上で原子力再稼働の必要を訴えた。

また、安全確保に關して、事業者も含めた意見交換のもとでの実効的規制、国民への説明、国際基準作りにおける交渉力をふまえた原子力技術・人材維持などを要望し、徹底した安全性確保を行った上で原子力再稼働の必要を訴えた。

また、安全確保に關して、事業者も含めた意見交換のもとでの実効的規制、国民への説明、国際基準作りにおける交渉力をふまえた原子力技術・人材維持などを要望し、徹底した安全性確保を行った上で原子力再稼働の必要を訴えた。

また、安全確保に關して、事業者も含めた意見交換のもとでの実効的規制、国民への説明、国際基準作りにおける交渉力をふまえた原子力技術・人材維持などを要望し、徹底した安全性確保を行った上で原子力再稼働の必要を訴えた。

前年度より微減

原子力委	来年度予算まとめ
原子力委員会で、二〇一三年度原子力予算案の集計結果が報告された。昨年十二月の政	取りまとめのもの。二〇一三年度の原子力予算は合計約三千二百五十四億円で、前年度より二・〇％減となった。うち一般会計が約五百四億円(対前年度比五・六％減)、エネルギー対策特別会計電源開発促進助成が二千六百四十九億円(同

値上げ申請、経営合理化に努力

四国電力は二十日、電気料金の値上げを経済産業省に申請した。経営全般にわたる合理化・効率化努力の一方、火力燃料費の増加、原子力の長期停止の影響など、電力の安定供給に支障をきたしかねないとの判断から、七月より、規制部門で平均一〇・九％、自由化部門で同一七・五％の値上げを行うもの。東日本大震災後、値上げ申請は、東京電力、関西電力、九州電力、東北電力に続いて五社目。

今回の値上げ申請は、徹底した経営効率化を前提とした「最後の手段」としている。

安全対策を着実に推進したほか、伊方全号機が復帰した際の料金値下げにも言及した。

安全対策を着実に推進したほか、伊方全号機が復帰した際の料金値下げにも言及した。

安全対策を着実に推進したほか、伊方全号機が復帰した際の料金値下げにも言及した。

安全対策を着実に推進したほか、伊方全号機が復帰した際の料金値下げにも言及した。

グローバルな視点に立つて

規制、事業者交え議論

川内村長らから現状聴く

新安全基準骨子でコメント発表

国の責任で再稼働判断を

核燃料サイクル堅持を要望

東芝社長に田中副社長昇格

佐々木氏は副会長

議長を務めた国際エネルギー機関元事務局長の田中伸男氏は冒頭、今後のエネルギー安全保障のあり方にも言及した上で、福島原子力発電所事故後の日本の規制に「世界が注目」などと述べ、グローバルな視点から議論が展開されるよう期待した。

規制委員会がこのほど示した新安全基準骨子案に關して、富岡氏は「多重化」と「多様化」を視

規制委員会がこのほど示した新安全基準骨子案に關して、富岡氏は「多重化」と「多様化」を視

規制委員会がこのほど示した新安全基準骨子案に關して、富岡氏は「多重化」と「多様化」を視

規制委員会がこのほど示した新安全基準骨子案に關して、富岡氏は「多重化」と「多様化」を視

規制委員会がこのほど示した新安全基準骨子案に關して、富岡氏は「多重化」と「多様化」を視

規制委員会がこのほど示した新安全基準骨子案に關して、富岡氏は「多重化」と「多様化」を視

規制委員会がこのほど示した新安全基準骨子案に關して、富岡氏は「多重化」と「多様化」を視

規制委員会がこのほど示した新安全基準骨子案に關して、富岡氏は「多重化」と「多様化」を視

規制委員会がこのほど示した新安全基準骨子案に關して、富岡氏は「多重化」と「多様化」を視

規制委員会がこのほど示した新安全基準骨子案に關して、富岡氏は「多重化」と「多様化」を視